



世界水産物連盟ニュースレター 2022年5月



2022年のGOAL国際会議について

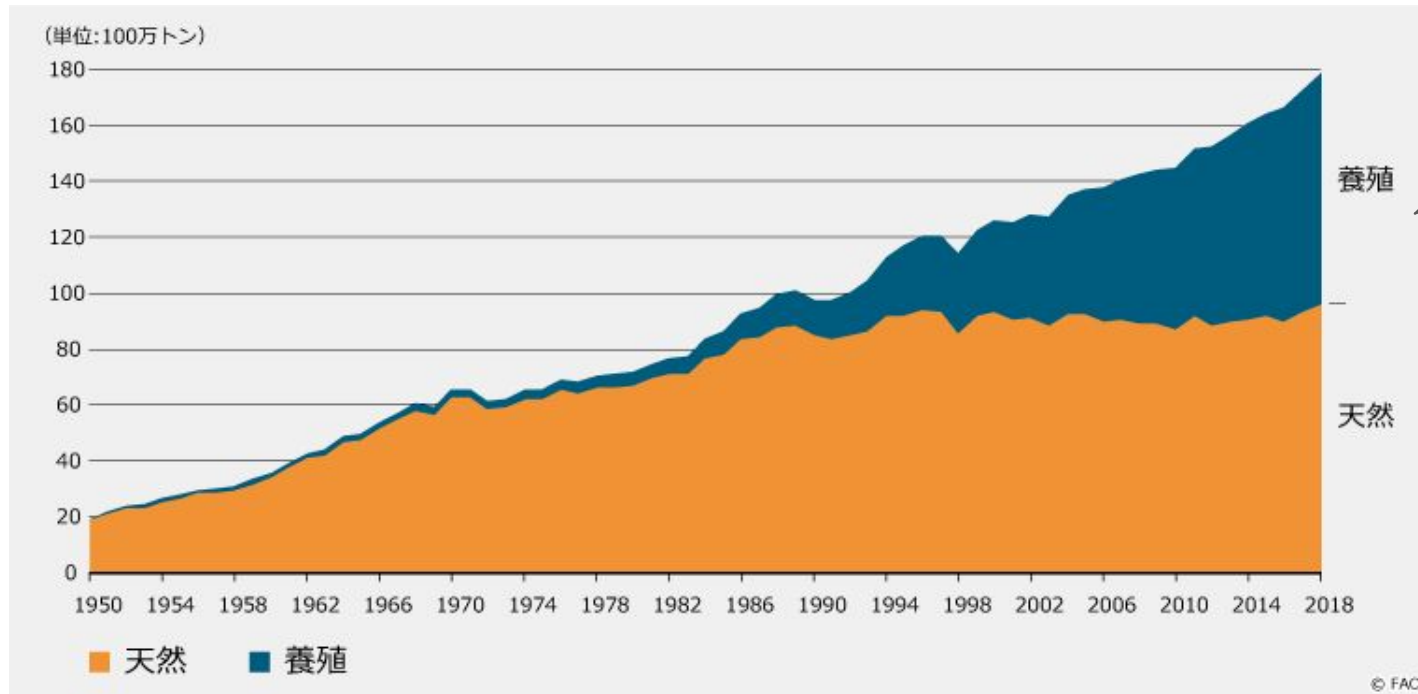
10月24日から27日に東京での開催を検討していた弊社主催のGOAL国際会議は、パンデミックの影響を受けて、10月3日から6日にアメリカ合衆国シアトルのFairmont Olympic Hotelにて開催する運びとなりました。GOAL(Global Outlook for Aquaculture Leadership)は今年で21回目の開催を迎える、養殖業における世界最大規模の国際会議ですが、本年度は天然水産物にも対象を拡大して行われます。

本年度のGOAL国際会議のプログラムは5月下旬、登録は6月1日より開始されます。追って、最新情報をお送り致します。

また、2023年はカナダ、2024年はスコットランドでの開催が決定しております。



問題点の整理



世界の魚介類総生産量(海藻類等は除く) 出典:FAO「世界漁業・養殖白書2020年」

世界的な魚の消費は右肩上がり一方で漁船漁業による生産量は頭打ちで、養殖業の拡大が需要を賄う為に大きな役割をはたしています。しかし養殖により全ての資源の問題が解決するわけではありません。

また、養殖が急速に増加したことにより以下の様な問題が発生しております。

-餌による水質汚染、生餌など他の資源の使用、養殖場建設による自然環境の破壊、養殖魚の脱走により生態系に与える影響、**過度な抗生物質の使用**、過酷な労働環境など



BAP認証では4つの柱(食品安全、環境への責任、社会への責任、動物の健康と福祉)を設け、養殖のサプライチェーンの各段階に基準を設定する事により、これら全ての問題やその他の問題にも対応しております。

問題点の整理～BAP認証での対応～

今回は**過度な抗生物質の使用**についてです。

一部治療薬の残留物が魚の組織内に蓄積され、人間の健康危害要因となる可能性があります。そのため、特定化合物が予防的に禁止され、その他の化合物については残留限界量を守ることが義務づけられています。このような規制の不順守は、食品安全性を危うくするだけでなく、食品供給チェーンの全関係者に深刻な経済的影響を及ぼす可能性があります。化学品の誤った使用は、養殖場周辺に生息するほかの生物に害を与える恐れがあります。さらに、抗生物質の長期的な使用により病原体が抗生物質への耐性を持ち、これが魚類、その他の水生種に影響を及ぼす場合もあります。

BAP認証では、予防措置として禁止されている抗生物質、医薬品、その他の化合物を使用しないものとします。これ以外の治療薬は、診断された疾病の抑制や必要な池管理のために、製品のラベルに記載された指示に従い使用し、獣医師の監督なしに予防目的で使用しないものとします。

例えば以下の様な基準が組み込まれております。

1.2: 抗菌剤による治療は、資格のある水生動物の健康の専門家または獣医によって監督された推奨事項と承認にのみ基づいており、診断された疾患を治療するためにのみ、動物の健康管理計画の一部として抗生物質感受性試験を製品ラベルと国内規制に従い行うものとします。

1.4: 抗菌剤およびその他の治療用化学物質のすべての適用について、日付、使用化合物、使用理由、薬剤感受性試験結果、用量、必要な消退期間、および使用された製造ロットの収穫日を含む記録を維持するものとします。抗生物質の使用は、収穫された水生動物の kg API/MTとして報告されるものとします。

1.8 BAP認証を取得していない供給元から提供された種苗を使用する養殖場の場合、禁止されている抗菌剤やその他の化学物質が種苗に適用されていないことを宣言する声明を孵化場または供給元から提供されるものとします。

1.14 WHOによってヒトの医療上極めて重要な抗菌剤に指定されている抗菌剤は使用してはなりません。

閉鎖循環式陸上養殖のヴァンガード基準のパブリックコメント開始

GSAは閉鎖循環式陸上養殖のヴァンガード*基準(以下、RASヴァンガード)が7月4日までのパブリックコメントの期間に入ったと発表しました。

*BAP Vanguard(BAPヴァンガード): 既存のBAP認証基準に加えて特定の部分を強化する為に用いられるプログラムです。主に既存の基準とは別に追加の基準への適合、監査の強化などが行われます。

こちらのRASヴァンガードは3つ目の事例で、その他には①強化版社会的説明責任と従業員の健康と安全の監査基準、②抗生物質不使用での養殖基準がございます。

その他にも、気候変動対策、トレーサビリティ、持続可能な飼料成分に焦点を当てたヴァンガード基準も開発中です。

RASヴァンガードへ申請するには、生産者はBAP養殖場基準3.0の認証を取得する必要があります。

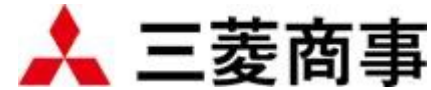
RASヴァンガードでは全ての魚類を対象としていますが、貝、海藻、水生植物は対象外です。

水利用効率、排出物管理と循環経済、エネルギー利用効率と再生可能エネルギーの使用、動物福祉など資源の使用と影響の複数のカテゴリーに対応しております。

RASヴァンガードへのパブリックコメントをご希望の方は、[BAP Standards webpage](#)へ進み、フォームを記入の上、dan.lee@globalseafood.orgもしくはdavid.yunker@globalseafood.orgまでお送り下さい。



国内BAPエンドーサー企業一覧



※全26社のうち、23社を掲載

BSP認証のウェビナー開催

日本の企業様向けに、6月22日(水)の13時～14時にBSP認証のウェビナーを開催致します。

[こちら](#) から無料の事前登録をお願い致します。

<背景>

「サステナブルシーフード」という言葉を聞く機会が増えてきました。天然水産物に関して、資源の持続可能性や漁業の生態系への影響、漁業の管理システム等に加えて、その先をみる必要があると感じております。その一つは社会面、特に漁船上での人権問題についてです。

今回のウェビナーでは、IUU漁業、漁船上での人権侵害に関して、閉鎖された漁船上の労働環境で実際に起こっているとされる人身売買や強制労働、搾取的な労働条件、賃金引下げ、身体的・性的暴行、違法な長時間労働、不衛生な生活環境などの問題点を取り上げます。

加えて、漁船上の乗組員の人権保護に関する項目を多く含むBSP認証についてもご紹介させていただきます。

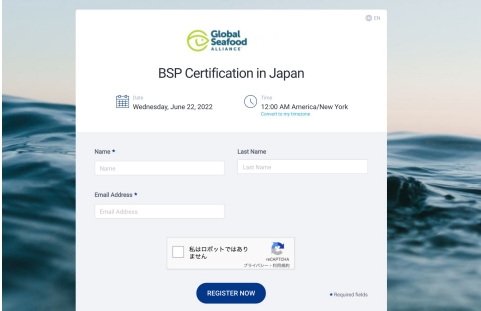
<スピーカー>

Environmental Justice Foundation(EJF) 日本代表 田儀 耕司様

世界水産物連盟(GSA: Global Seafood Alliance) 芝井 幸太

<プログラム予定>

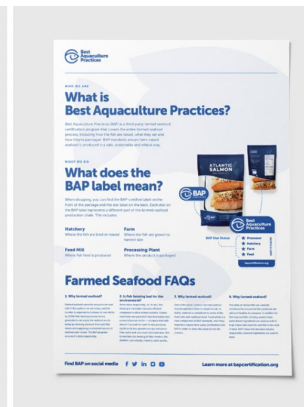
1. ウェビナー開始のご挨拶と概要説明 世界水産物連盟 芝井 幸太
2. EJFの活動内容とIUU漁業、漁船上での人権問題に関して Environmental Justice Foundation 日本代表 田儀様
3. BSP認証のご紹介 世界水産物連盟 芝井 幸太
4. Q&A
5. 終わりのご挨拶



The screenshot shows a registration form for 'BSP Certification in Japan' by the Global Seafood Alliance. The form includes fields for 'Name' (split into 'First Name' and 'Last Name') and 'Email Address'. Below these fields is a checkbox labeled '私はロボットではありません' (I am not a robot) with a reCAPTCHA logo. At the bottom right is a blue 'REGISTER NOW' button. The background of the form is a light blue gradient with a subtle wave pattern.

BAP認証フェアの企画大募集中です！

BAP認証を運営するGSAではマーケティングサポートも積極的に行っております。
共同でのイベントをご希望の方は日本マーケット担当芝井までご連絡下さいませ。
それぞれのイベントのご要望に合わせて打ち合わせをさせて頂き、必要に応じてポスター、ポップ、
その他ビデオ、ステッカー等々を 無料にてデザイン、納品致します。
※必要枚数の印刷に関しては各企業様でご負担を頂けます様お願い致します。



Front (4" x 6")



Back (4" x 6")

マーケティングサポート用にご用意ができる資料は以下をご参照下さいませ。

<https://drive.google.com/file/d/1COWGrAKVCVoEldZzmsOcSIXJZHcQ5-5h/view?usp=sharing>

マーケットとして導入しやすいBAP認証

ふ化場、飼料工場、養殖場、加工工場はBAP認証の対象になり、年に一度の監査が必要になります。
商品の加工が発生しないサプライヤー、小売、社員食堂やレストランなどのフードサービスはエンドーサー合意書の締結のみで、無料でBAPロゴの使用やリリース、レポート等での発信が可能になります。

特例1: 個別包装された商品を開封、再梱包またはラベルの張り替えをせず、商品の梱包やラベルをそのままの状態での流通する場合について。その施設は加工工場認証の取得対象外になり、エンドーサー合意書の締結のみ必要となりBAPロゴ付き商品として、そのまま販売して頂けます。

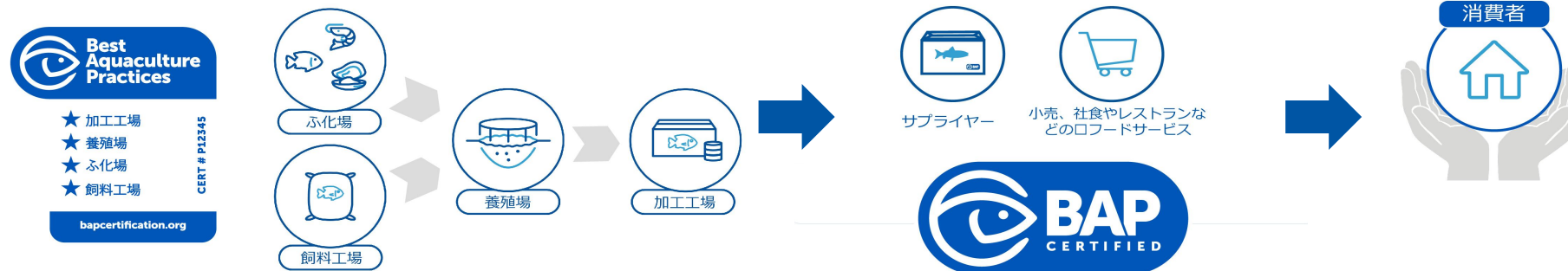
特例2: 最終消費現場での商品の加工、調理、再包装、またラベル張り替えをする場合は加工工場認証の対象外となり、エンドーサー合意書の締結のみでロゴを使用いただけます。(スーパーのバックヤード加工、飲食店・レストラン・ホテルの調理場加工など。)

また、複数の水産物を使用した製品に関して、使用された一部の水産物がBAP認証であればロゴマークを使用することができます。可能な限りどの水産物がBAP認証なのかを明記してください。

詳しくは[こちら](#)よりBAP認証ロゴガイドラインをご参照ください。

ふ化場、飼料工場、養殖場、加工工場はBAP認証の対象となります。

BAP認証水産物を販売促進または購買支援する企業はエンドーサー契約の対象となります。



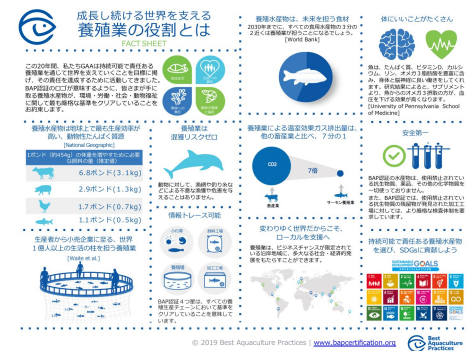
BAP認証の日本語版の各種資料について

BAP認証に関する日本語の三つ折りパンフレットや、各種資料を以下のリンク先より無料ダウンロードすることができます。是非ご活用下さいませ。

<https://info.globalseafood.org/ja-jp/bap>



GSAとBAP認証のご案内



養殖漁業ファクトシート



BAP認証ロゴマーク使用ガイドライン



2020年次レポート

BAP認証の日本語ロゴについて

BAP認証の日本語版ロゴを用意しております。
利用をご希望の方は芝井までお問い合わせください。
kota.shibai@globalseafood.org



魚と人の
未来のために



責任ある
養殖水産物の
国際基準



国際基準を満たした環境で
養殖されています



海と魚を守る安心の
BAPマーク



きれいな海で獲れた健康な
魚介類の証

ニュースレターに関するお問い合わせは以下までお願い致します。
※二次利用をご希望の方はお問い合わせ下さいませ。

世界水産物連盟 日本マーケット担当
芝井 幸太

メールアドレス：
kota.shibai@globalseafood.org

電話番号：
080-2167-0086

BAP認証ウェブサイト
<https://japan.bapcertification.org/>

※配信停止をご希望の方は、こちらまで「配信停止」とご連絡くださいませ。

